第1回質問・回答内容

1. 松井の地名
向山の西方にある女夫木ヶ原（めおとぎがはら）に雄松と雌松の大木があり、その傍らに井戸があったからと伝えられている。

2. 袋中上人（1552～1639） 飯岡　西方寺
念佛専修、布教と著作に専念した在野の学僧。
諸国を巡り念仏の教えを極め、51歳で明に渡るが、上陸を許されず琉球に漂着し、浄土宗の念仏を広める。念仏布教のために歌・踊りを取り入れる。これがエイサーの原形となる。
民衆の教化、児童の教育、産業の振興、浄土念仏の普及に力を尽し『琉球神道記』五巻。 現沖縄の恩人。琉球滞在3年後、帰国し全国に20数ヶ寺を再興及び建立。著書も多数あり。

第1回質問・回答内容

3. 隼人舞
海幸彦・山幸彦の神話が起源

舞人は地元中学生の13名。古代の衣装を身にまとい、手には剣や盾などの武具、扇、鈴を持ち、太鼓や龍笛の音に合わせて踊る。
お祓いの舞、神招の舞、振剣の舞、盾伏の舞、弓の舞、松明の舞。
海で溺れているところを山幸彦に助けられた海幸彦が、山幸彦への服従を誓い、その証として永久に俳優（わざおぎ、神を招(お)ぐ態(わざ)面白おかしい技を演じて、歌い舞い、神や人の心を和らげ楽しませる）たらんと、水に溺れている様子を演武したものと伝わる。

弟は兄から借りた釣り針を紛失、海神の協力で取り戻す。
風を招くしぐさを教えてもらう。兄が釣りをした日に弟が風招をすると、兄はおぼれ、助けを乞い、風がやむ。弟に霊力を感じ、兄は降参。

第1回質問・回答内容

4. 伊藤若冲

1788年の天明の大火で、京都の青物問屋と若冲の屋敷全てが焼かれ、2年間行方不明となる。伏見の石峰寺近辺に住んでいたといわれ、その間、普賢寺に短期間住まいをしていたのではないか。

・絵画保有について

舞妓の茶本舗の店先に鶏の絵がある。
若冲の押印がある。
本物かどうかについては、不明。

・屋敷跡について

案内板の付近と考えられる。
お隣の土塀の屋敷は、伊東氏で特に関係はないとのこと。